

YAESU
The radio

144/430MHz
DUAL BAND FM TRANSCEIVER

FTM-6000 FTM-6000S

取扱説明書



製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、基本的な操作に関する説明が記載されています。
詳細編の取扱説明書は、製品には同梱されていません。
当社ウェブサイト (www.yaesu.com/jp) からダウンロードしてください。

目次

本機の優れた機能や特長	1	PMGに登録した周波数の登録を取り消す	19
本書では次のような表記を使用しています ..	1	PMGを終了する	19
電波を発射する前に	1	メモリーチャンネルに名前を付ける	20
基本操作	2	メモリーを消去する	21
電源を入れる	2	メモリーをコピーする	21
音量を調節する	2	ホームチャンネルを呼び出す	22
スケルチ (SQL) を調節する	2	[F1]キーで呼び出す	22
周波数帯 (バンド) を選択する	2	ファンクションリストから呼び出す	22
周波数をあわせる	3	メニューリストから呼び出す	22
DIALツマミをまわして周波数をあわせる	3	マイクロホンのキーで呼び出す	23
マイクロホンの数字キーで周波数を直接入力する ..	3	ホームチャンネルの登録内容を変更する	23
送信する	3	[F1]キーまたはマイクロホンのキーで変更する ...	23
キーやDIALツマミをロックする	3	スキャン機能	24
3階層の設定が可能な新感覚の操作性		VFOスキャン/メモリスキャン/	
E2O-Ⅲ (Easy to Operate-Ⅲ)	4	PMGスキャン	24
① [F1]キー	4	プログラマブルメモリスキャン (PMS)	24
② ファンクションリスト	4	スキャン停止時の動作を設定する	25
③ メニューリスト	4	スキャンしたくないメモリーチャンネルを	
④ MAG(メモリーオートグルーピング)機能	5	設定する	25
⑤ PMG(プライマリーメモリーグループ)機能	5	便利な機能	26
⑥ VFOバンドスキップ機能	5	Bluetooth®機能	26
⑦ メモリー → VFO にコピー	5	Bluetooth®ユニット “BU-4” を取り付ける	26
付属品/オプション	7	はじめてヘッドセットと接続する	27
各部の名前と操作	8	Bluetooth®ヘッドセットのボタンを押して	
フロントパネル (前面)	8	送信する	28
フロントパネル (側面/背面)	11	別のBluetooth®ヘッドセットと接続する	28
本体 (前面/背面)	11	登録 (ペアリング)済みのBluetooth®	
マイクロホン (SSM-85D)	12	ヘッドセットと接続する	29
無線機の設置と接続方法	13	登録 (ペアリング)済みのBluetooth®	
モバイル運用についてのご注意	13	ヘッドセットをリストから削除する	29
設置上のご注意	13	Bluetooth®バッテリーセーブ機能を使う	30
アンテナと電源の設置	13	Bluetooth®接続中に本機のスピーカーを	
無線機本体とフロントパネルを設置する	14	鳴らすかどうかを設定する	30
レピータ運用	15	周波数ステップを変更する	31
レピータを使って交信する	15	送信出力を変更する	31
送信と受信の周波数を入れ替えるリバース機能 ...	15	トーンスケルチ機能	32
メモリー機能	16	デジタルコードスケルチ (DCS)機能	32
メモリーに書き込む	16	ページャー (EPCS)機能	32
スプリットメモリー	16	アーツ (ARTS)機能	32
メモリーを呼び出す	17	メニューリスト	33
マイクロホンの数字キーでメモリーチャンネルを		メニューリストの操作方法	33
直接入力する	17	メニューリスト一覧	34
MAG(メモリーオートグルーピング)機能で		設定を初期値に戻す (オールリセット)	36
同じ周波数帯 (バンド) のメモリーだけを		定格	37
呼び出す	18	バンド区分	39
PMG(プライマリーメモリーグループ)機能で		免許申請書類の書きかた	40
登録した周波数 (メモリーチャンネル) だけを			
呼び出す	19		
PMGに周波数を登録する	19		
PMGに登録した周波数を呼び出す	19		

本機の優れた機能や特長

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

- ◎ 運用中によく使う機能や設定をワンタッチで呼び出せるファンクションリストを採用した“E2O-Ⅲ (Easy to Operate-Ⅲ)”を採用
- ◎ プライマリーメモリーグループ (PMG)機能により、周波数帯に関係なく登録したメモリーチャンネルだけを呼び出すことができます。
- ◎ メモリーオートグルーピング (MAG)機能により、同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグルーピング化して呼び出すことができます。
- ◎ 108MHz ～ 999.995MHz の広帯域受信機能搭載
- ◎ Bluetooth[®]機能に対応 (オプションのBluetooth[®]ユニットBU-4 の取付が必要)
オプションのBluetooth[®]ヘッドセットSSM-BT10 または市販のBluetooth[®]ヘッドセットを使ったりリモートオペレーションに対応しています。
- ◎ 英数 6 文字のメモリータグを付けられる、大容量 1100 チャンネルメモリーを搭載
- ◎ 高音質で 3W の大音量のスピーカーを内蔵
- ◎ 安定した送信出力を保証する“FACC(Funnel Air-Convection Conductor)”冷却システム

本書では次のような表記を使用しています



注意していただきたい内容を説明します。



操作上のアドバイスや知っておくと便利なことを説明します。

製品の改良のため、取扱説明書のイラストなどの一部が実際の製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則 第 8 章 アマチュア局の運用

第 258 条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときには、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて、お買いあげの販売店または、当社カスタマーサポート (電話：0570-088013) に相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟 (JARL) では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟 (JARL)

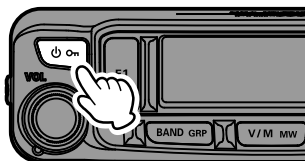
〒170-8073 東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚 HT ビル 6 階

TEL 03-3988-8754

基本操作

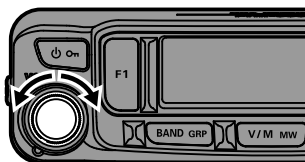
電源を入れる

電源スイッチの長押しで、電源をオン/オフします。



音量を調節する

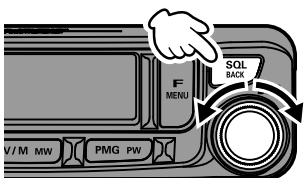
VOLツマミをまわして調節します。



スケルチ (SQL) を調節する

信号を受信していないときの「ザー」という連続したノイズを消すことができます。通常は工場出荷時の設定で使用しますが、使用するアンテナ、まわりのノイズなどによって調節します。

1. [SQL BACK]キーを押した後にDIALツマミをまわして調節します。
2. もう一度[SQL BACK]キーを押すか、約2秒間何も操作しないと通常画面に戻ります。

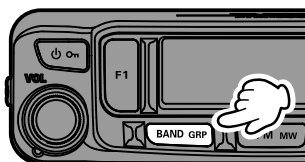


スケルチのレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い信号を受信しにくくなりますのでご注意ください。

周波数帯 (バンド) を選択する

[BAND GRP]キーを押して、周波数帯を選択します。
選択できる周波数帯は以下のとおりです。

航空無線帯	： 108MHz ～ 137MHz
144MHz帯	： 137MHz ～ 174MHz
VHF帯	： 174MHz ～ 400MHz
430MHz帯	： 400MHz ～ 480MHz
UHF帯	： 480MHz ～ 999.995MHz



“バンドスキップ機能”で、使用したいバンドだけを選択できるようにできます。選択できないバンドでも、よく使う周波数などはあらかじめメモリーチャンネルに保存しておけば、設定に関係なく呼び出すことができます。

[F MENU]キー長押し → [18 BAND.SEL] を選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわして設定したいバンドを選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわして“ON”(選択可能)または“OFF”(選択不可能)を設定します。

周波数をあわせる

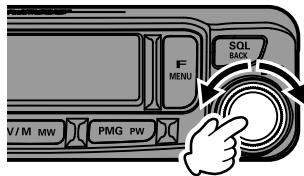
● DIALツマミをまわして周波数をあわせる

1MHz単位で周波数を変更する

DIALツマミを押してからDIALツマミをまわす。

5MHz単位で周波数を変更する

DIALツマミを**長押し**してからDIALツマミをまわす。



● マイクロホンの数字キーで周波数を直接入力する

“0”～“9”の数字キーを押して、周波数を入力します。

(例) 145.520MHz を入力する場合

[1]→[4]→[5]→[5]→[2]

(例) 433.000MHz を入力する場合

[4]→[3]→[3]→【いずれかの数字キーを長押し】



周波数を入力中にPTTスイッチを押すと、入力をキャンセルできます。



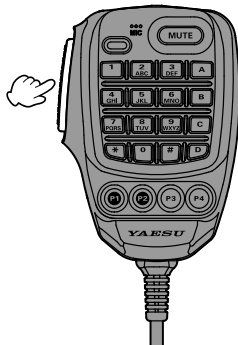
送信する

マイクのPTTスイッチを押すと送信、PTTスイッチを放すと受信に戻ります。

送信中は“**TX**”が表示され、信号を受信中は“**BUSY**”が表示されます。



- アマチュア無線の周波数帯以外で送信しようとすると、警告音が鳴り“lnhbt”が表示されて送信できません。
- 長時間送信し続けると本機が高温になります。この時、過熱防止保護機能が働いてピープ音が鳴り送信出力が自動的に下がりますが、そのまま送信を続けると強制的に受信状態になります。

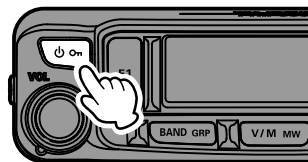


キーやDIALツマミをロックする

1. 電源スイッチを押すと、約 1 秒間“**LOCK**”と表示され本体とマイクロホンのキーやDIALツマミがロックします。



PTTスイッチ、VOLツマミ、“SQLOFF”を割り当てたマイクロホンのキーはロックすることはできません。



2. もう一度電源スイッチを押すと“**UNLOCK**”と表示され、ロックが解除されます。

3階層の設定が可能な新感覚の操作性 E2O-Ⅲ (Easy to Operate-Ⅲ)

- ① 最も頻繁に使用する機能を割り当てる “[F1]キー”
- ② 使用頻度の高い機能を設定する “ファンクションリスト”
- ③ 全ての設定を行う “メニューリスト”

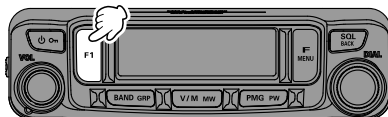
① [F1]キー

ファンクションリストの中から、最も優先する項目を[F1]キーに登録することができ、[F1]キーを押すだけでダイレクトに呼び出すことができます。

● [F1]キーへの割り当ての変更

ファンクションリストから割り当てたい機能や項目を選んで[F1]キーを長押しします。

長押しで[F1]キーに割り当て
短押しで呼び出して実行



② ファンクションリスト

34種類のメニューリスト(6ページ参照)の中から、よく使う項目をファンクションリストに登録することができ、[F MENU]キーを押してDIALツマミをまわして呼び出すことができます。

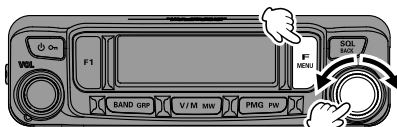
● ファンクションリストへの登録

メニューリストから割り当てたい機能や項目を選んで[F MENU]キーを長押しします。

● ファンクションリストへの登録を取り消す

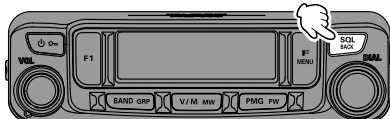
取り消したい機能や項目を選んで[SQL BACK]キーを長押しします。機能はファンクションリストから取り消されて、メニューリストに戻ります。

長押しでファンクションリストに登録
短押しで呼び出す



DIALをまわして選択

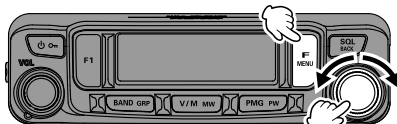
長押しで登録の取り消し



③ メニューリスト(6ページ参照)

ファンクションリストに登録した以外の全ての機能や項目は、[F MENU]キーを長押ししてDIALツマミをまわして選択します。

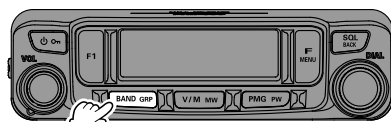
長押しでメニューリストを呼び出す



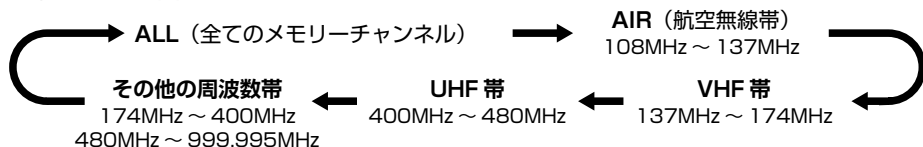
DIALをまわして選択

④ MAG(メモリーオートグルーピング)機能

メモリーチャンネルを簡単にバンドごとにグルーピングして呼び出すことができます。メモリーモードで運用中に[BAND GRP]キーを押すたびに、下記の順番でバンドが切り替わり、その周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグループ化して呼び出すことができます。



メモリーモード時に
短押しでバンドを切り替え



⑤ PMG(プライマリーメモリーグループ)機能

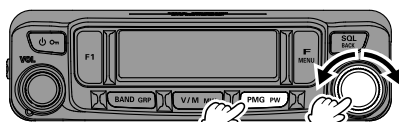
よく使う周波数をPMGに登録しておけば[PMG PW]キーを押すだけで、登録した周波数をわかりやすく表示することができます。

● PMG に周波数を登録する

登録したい周波数またはメモリーチャンネルを表示して[PMG PW]キーを長押しするとPMGに登録されます。

● PMG に登録された周波数の登録を取り消す

PMG動作中に、登録を取り消す周波数(チャンネル)を選んで[PMG PW]キーを長押しすると、その周波数の登録が取り消されます。



長押しで登録または登録の解除
短押しでPMGの呼び出しまたは終了

DIALを
まわして選択



PMGには最大5チャンネルまで登録することができます。更に新しい周波数を登録したい時は、一つの周波数の登録を取り消してから新しい周波数を登録してください。

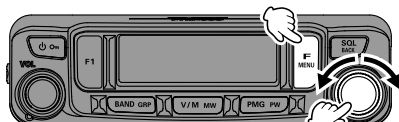
⑥ VFOバンドスキップ機能

[BAND GRP]キーを押して運用バンドを切り替えるとき、使用しないバンドをスキップすることができます。

● スキップするバンドを設定する

[F MENU]キーを長押し → DIALツマミをまわして[18 BND.SEL]を選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわしてバンドを選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわして“ON”(選択可)または“OFF”(選択不可)を設定。

長押しでメニューリストを呼び出す

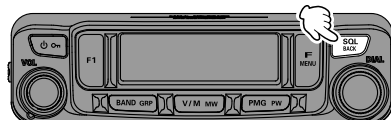


DIALをまわして選択

⑦ メモリー → VFO にコピー

メモリーチャンネルを表示中に[SQL BACK]キーを長押しすると、メモリーチャンネルの情報をそのまま、VFOにすることができます。

長押しでVFOにコピー



メニューリスト項目一覧

■ 部分の項目は工場出荷時に、[F MENU]キーを押して呼び出す“ファンクションリスト”に登録されています。

01 APO	オートパワーオフ動作時間の設定
02 AR MOD	ARTS(アーツ)モードの設定
03 AR INT	ARTS(アーツ)チェック間隔の設定
04 BCLO	信号受信中の送信禁止設定
05 BEEP	ビーブ音の音量設定
06 BELL	ベル機能の設定
07 CLK.TYP	クロックシフトの設定
08 DIMMER	バックライト、キーの明るさ設定
09 DTMF	DTMFコードの送出方法の設定
10 DT TX	登録してあるDTMFの送出
11 DT MEM	DTMFコードの登録
12 HOME	ホームチャンネルの呼び出し
13 MIC.GIN	マイク入力レベルの調整
14 MIC.PGM	マイクロホンのプログラムキー設定
15 PAGER	ページャー機能の個別コード設定
16 PKT.SPD	データ通信ボーレートの設定
17 RX MOD	受信モードの切り替え
18 BND.SEL	使用しないバンドをスキップすることができます。
19 RPT.REV	レピータ運用時に、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えます。

20 RPT.SET	レピータシフト方向の設定
21 RPT.OTR	・ARS機能の設定 ・レピータオフセット周波数の設定
22 SCN.ON	スキャン機能が動作します
23 SCN.TYP	・スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定 ・DW動作中、常にホームチャンネルで送信するかの設定
24 SQL.TYP	スケルチタイプの選択
25 SQL.COD	トーン周波数やDCSコードの設定
26 SQL.EXP	送受信で別々のスケルチタイプの設定の許可
27 STEP	チャンネルステップの設定
28 xx.xC	終段部付近の温度表示
29 TOT	タイムアウトタイマーの設定
30 TX PWR	送信出力の切り替え
31 VER.DSP	ソフトウェアのバージョン表示
32 xx.xV	電源電圧表示
33 WIDTH	FM帯域幅の設定
34 BLT	Bluetooth [®] 機能の設定

付属品

- DTMF付きマイクロホン (SSM-85D)
- DC電源ケーブル
- コントロールケーブル
- コントロールケーブル (3m)
- 本体用ブラケット
- フロントパネル用ブラケット
- USBケーブル
- 予備ヒューズ (FTM-6000 : 15A、FTM-6000S : 10A)
- 取扱説明書 (本書)
- 保証書



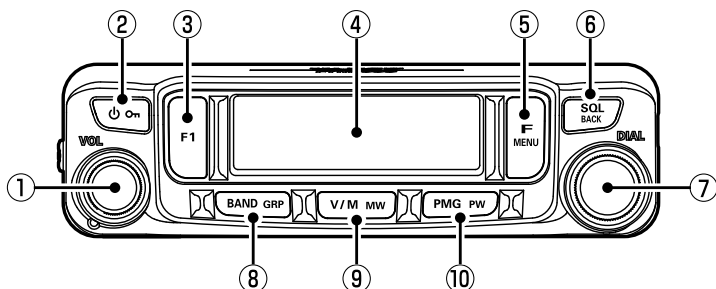
- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを確認してください。
- 万一、不足品がある場合は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

オプション

- | | |
|--|----------|
| • DTMF付きマイクロホン | SSM-85D |
| • マイクロホン | MH-42C6J |
| • Bluetooth [®] ヘッドセット (BU-4 が必要です) | SSM-BT10 |
| • Bluetooth [®] ユニット | BU-4 |
| • 大音量外部スピーカー | MLS-100 |
| • 角度可変型吸着式フロントパネル用ブラケット | MMB-98 |
| • マイクエクステンションキット (3m) | MEK-5 |
| • コントロールケーブル (6m) | SCU-47 |
| • クローンケーブル | CT-166 |
| • データケーブル (MDIN10 ピン ↔ MDIN6 ピン+Dsub9 ピン) | CT-163 |
| • データケーブル (MDIN10 ピン ↔ MDIN6 ピン) | CT-164 |
| • データケーブル (MDIN10 ピン ↔ 先バラ) | CT-167 |

各部の名前と操作

フロントパネル (前面)



① VOL(音量調節)ツマミ

② 電源 (On)スイッチ

長押しして電源をオン/オフします。

電源がオンのときに押すと、DIALツマミと各キーがロックします。もう一度押すとロックが解除されます。

③ [F1]キー

よく使うファンクションリストまたはメニューリストの項目をワンタッチで呼び出すことができます。工場出荷時は、ホームチャンネルを呼び出す“HOME”が登録されています。

他の項目に変更したいときは、[F MENU]キーを押してからDIALツマミをまわして希望の項目を選び、[F1]キーを長押しします。

④ LCDディスプレイ

1~5: PMGメモリー番号

F: ファンクションリスト呼び出し中

A: AIRバンド帯^{*1}だけのメモリー呼び出し中

V: VHF帯^{*2}だけのメモリー呼び出し中

U: UHF帯^{*3}だけのメモリー呼び出し中

Q: その他の周波数帯^{*4}だけのメモリー呼び出し中

^{*1}: 108MHz ~ 137MHz

^{*2}: 137MHz ~ 174MHz

^{*3}: 400MHz ~ 480MHz

^{*4}: 174MHz ~ 400MHz
480MHz ~ 999.995MHz

00 1~999: メモリーチャンネル番号

LO 1~US0: プログラムメモリーチャンネル

PO 1~PS0: プログラムメモリーチャンネルスキャン時

H-H: ホームチャンネル

PM: PMG呼び出し中

DCS (Digital Code Squelch)

レピーターシフト方向

トーンスケルタイプ

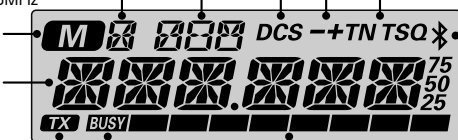
メモリーモード

・周波数表示

・メモリータグ(名前)表示

・メニューリスト項目表示

・ファンクション項目表示



Bluetooth機能
(接続時: 点灯、未接続時: 点滅)

スケルチオープン S/POメーター

送信時に表示

⑤ [F MENU]キー

短押し

メニューリスト(下表参照)の中から、登録した項目だけを表示する“ファンクションリスト”が動作します。DIALツマミをまわして項目を選択し、DIALツマミを押すと、機能の動作や設定を行うことができます。工場出荷時は、ファンクションリストに下表の■部分の項目が登録されていますが、いつでも項目の登録や登録の取り消しをすることができます。

追加登録：[F MENU]キーを長押し → DIALツマミで登録したい項目を選択 → [F MENU]キーを長押し

登録取り消し：DIALツマミで登録を取り消したい項目を選択 → [SQL BACK]キーを長押し

長押し

メニューリスト(下表参照)が表示されます。

DIALツマミをまわして項目を選択し、DIALツマミを押すと、機能の動作や設定を行うことができます。

■部分の項目はあらかじめ“ファンクションリスト”に登録されていますので、[F MENU]キーを短押しして呼び出します。

メニューリスト一覧

01 APO	オートパワーオフ動作時間の設定	21 RPT.OTR	・ARS機能の設定 ・レピータオフセット周波数の設定
02 AR MOD	ARTS(アーツ)モードの設定	22 SCN.ON	スキャン機能が動作します
03 AR INT	ARTS(アーツ)チェック間隔の設定	23 SCN.TYP	・スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定 ・DW動作中、常にホームチャンネルで送信することができます。
04 BCLO	信号受信中の送信禁止設定	24 SQL.TYP	スケルチタイプの選択
05 BEEP	ビーブ音の音量設定	25 SQL.COD	トーン周波数やDCSコードの設定
06 BELL	ベル機能の設定	26 SQL.EXP	送受信で別々のスケルチタイプの設定の許可
07 CLK.TYP	クロックシフトの設定	27 STEP	チャンネルステップの設定
08 DIMMER	バックライト、キーの明るさ設定	28 xx.xC	終段部付近の温度表示
09 DTMF	DTMFコードの送出方法の設定	29 TOT	タイムアウトタイマーの設定
10 DT TX	登録してあるDTMFの送出		
11 DT MEM	DTMFコードの登録		
12 HOME	ホームチャンネルの呼び出し		
13 MIC.GIN	マイク入力レベルの調整		
14 MIC.PGM	マイクロホンのプログラムキー(P1/P2/P3/P4)の機能設定	30 TX PWR	送信出力の切り替え HIGH / MID / LOW FTM-6000 : HIGH(50W) MID(25W) LOW(5W) FTM-6000S : HIGH(20W) MID(10W) LOW(1W)
15 PAGER	ページャー機能の個別コード(送信/受信)の設定	31 VER.DSP	ソフトウェアのバージョン表示
16 PKT.SPD	データ通信ボーレートの設定	32 xx.xV	電源電圧表示
17 RX MOD	受信モードの切り替え	33 WIDTH	FM帯域幅(WIDE/NARROW)の設定
18 BND.SEL	使用しないバンドをスキップすることができます。	34 BLT	Bluetooth [®] 機能の設定
19 RPT.REV	レピータ運用時に、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えます。		
20 RPT.SET	レピータシフト方向の設定		

⑥ [SQL BACK]キー

- ・押してからDIALツマミをまわすとスケルチレベルを調節できます。アナログFM特有の信号を受信していないときの“ザー”というノイズが入る場合に調節します。
- ・現在操作している1つ前の画面に戻ります。
- ・メモリーチャンネルを表示中に長押しすると、その時のメモリーチャンネルに登録されている情報のままVFOモードに移ります。

⑦ DIALツマミ

周波数変更やメモリーチャンネルの選択をします。

- ・押してからまわすと1MHz単位、長押ししてからまわすと5MHz単位で周波数を変更できます。
- ・[SQL BACK]キーを押してからまわすと、スケルチレベルを調節できます。

⑧ [BAND GRP]キー

VFOモード時

押すたびに運用周波数帯（バンド）が切り替わります。

バンド	選択できる周波数帯
航空無線帯	108MHz ～ 137MHz
144MHz帯	137MHz ～ 174MHz
VHF帯	174MHz ～ 400MHz
430MHz帯	400MHz ～ 480MHz
UHF帯	480MHz ～ 999.995MHz

使用したいバンドだけを選択できるようにできます。




[F MENU]キー長押し → DIALツマミをまわして **[18 BAND.SEL]** を選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわして設定したいバンドを選択 → DIALツマミを押す → DIALツマミをまわして “ON”（選択可能）または “OFF”（選択不可能）を設定します。

メモリーモード時

メモリーオートグルーピング (MAG) 機能により、押す度に下記のように同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグループ化して呼び出します。

※ メモリーされてない周波数のバンドは表示されません。

グループ名	呼び出せるメモリーチャンネル
ALL 	バンド（周波数帯）に関係なく、全てのメモリーチャンネルを呼び出します。
AIRバンド帯 	AIRバンド帯（108MHz ～ 137MHz）のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
VHF帯 	VHF帯（137MHz ～ 174MHz）のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
UHF帯 	UHF帯（400MHz ～ 480MHz）のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
その他の周波数帯 	174MHz ～ 400MHz、480MHz ～ 999.995MHz のメモリーチャンネルだけを呼び出します。

⑨ [V/M MW]キー

短押し

押すたびに、VFO のデータとメモリーチャンネルのデータが交互に呼び出されます。

メモリーチャンネルに保存されたデータが呼び出されたときは、“**M**” とメモリーチャンネルの番号が表示されます。メモリーチャンネルは最後に呼び出したメモリーチャンネルが呼び出されます。

長押し

現在の周波数などの運用状態をメモリーチャンネルに登録します。

⑩ [PMG PW]キー

短押し

PMG（プライマリーメモリーグループ）モードになり、登録された周波数だけを呼び出せます。もう一度押すと PMG モードは解除されます。

長押し

表示されている周波数を、PMG（プライマリーメモリーグループ）に登録します。

VFO モードでもメモリーモードでも、長押しするだけで PMG に登録されます。

PMG は周波数帯（バンド）に関係なく最大 5 チャンネルまで登録することができます。

フロントパネル (側面/背面)

DATA 端子

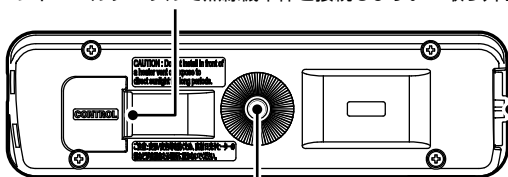
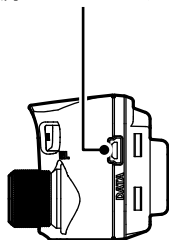
ファームウェアをアップデート*する時に、
付属の USB ケーブルでパソコンと接続します。

※ファームウェアのアップデートに関しては、
当社のウェブサイトを参照してください。

CONTROL ジャック

付属のコントロールケーブルで無線機本体と接続します。

パネルを無線機本体から
取り外すときに押します。



付属のパネル用ブラケットまたはオプションの角度可変型吸着式コントローラ用
ブラケット MMB-98 を付属のネジで取り付けます。

本体 (前面/背面)

MIC ジャック

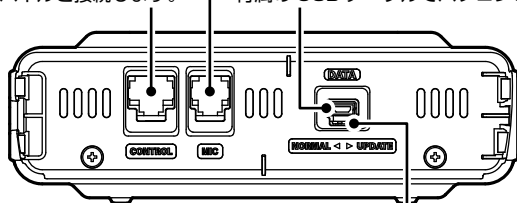
付属のマイクロホン SSM-85D のケーブルを差し込みます。

CONTROL ジャック

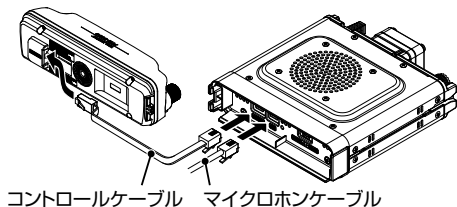
付属のコントロールケーブルで
フロントパネルと接続します。

DATA 端子

ファームウェアをアップデート*する時に、
付属の USB ケーブルでパソコンと接続します。



フロントパネルとマイクロホンの接続

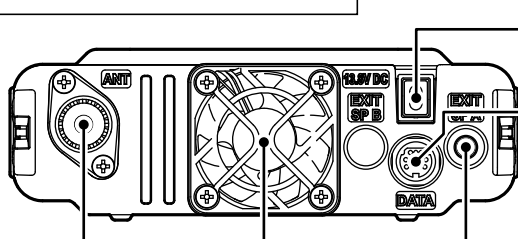


コントロールケーブル マイクロホンケーブル

アップデートスイッチ

ファームウェアをアップデート*する時に切り
替えるスイッチです。
通常は "NORMAL" の位置にしてください。

※ファームウェアのアップデートに関しては、
当社のウェブサイトを参照してください。



アンテナを接続します。 **冷却ファン**
(FTM-6000 のみ)

外部スピーカーを接続する
モノラルジャック (φ3.5mm) です。

付属の DC 電源ケーブルで
外部電源と接続します。

クローン機能を使う場合に、
他の FTM-6000/S とオプ
ションのクローンケーブル
"CT-166" で接続します。

マイクロホン (SSM-85D)

① マイク

② TXインジケータ

PTTスイッチを押した時に赤色で点灯します。

③ PTTスイッチ

押している間“送信”、放すと“受信”になります。

④ DWNスイッチ

周波数やメモリーチャンネルが1ステップ低くなり、押し続けるとスキャンを開始します。

⑤ UPスイッチ

周波数やメモリーチャンネルが1ステップ高くなり、押し続けるとスキャンを開始します。

⑥ MUTEキー

押すと受信音がミュート（消音）されます。もう一度押すとミュートは解除されます。

⑦ キースイッチ

送信中にDTMFを送出します。また、下記の操作ができます。

0～9：周波数やメモリーチャンネル番号を入力します。

A：MHz単位でのアップ/ダウン

B：スケルチレベルの調整。

C：PMGに登録されているメモリーの呼び出し。

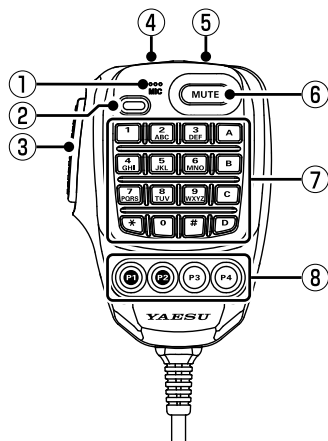
D：ファンクションリストに登録されている項目の呼び出し。

*：押すたびにVFOモードとメモリーモードが切り替わります。

#：押すたびに運用周波数帯（バンド）が切り替わります。

メモリーモード時に押すと、MAG（メモリーオートグループリング）機能により、同じ周波数帯のメモリーチャンネルだけを自動的にグループ化して下記の順に切り替わります。

全てのメモリーチャンネル → AIR（航空無線帯：108MHz～137MHz）→
→ VHF帯（137MHz～174MHz）→ UHF帯（400MHz～480MHz）→
→ その他の周波数帯（174MHz～400MHz、480MHz～999.995）→
→ 全てのメモリーチャンネル → …



⑧ プログラムキー（P1/P2/P3/P4）キー

[P1]/[P2]/[P3]/[P4]には工場出荷時、以下の機能が割り当てられています。

キー	工場出荷時設定	機能
P1	SQL OFF	スケルチが開きます。もう一度押すと閉じます。
P2	HOME	ホームチャンネルを呼び出します。 長押しすると現在の周波数をホームチャンネルに上書きします。
P3	SCN ON	スキャンを開始します。もう一度押すとスキャンが停止します。
P4	TX PWR	送信出力を切り替えます。（LOW → MID → HIGH）

[P1]～[P4]キーには、下記の操作で機能を割り当てることができます。

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【14 MIC.PGM】を選択してDIALツマミを押します。
3. DIALツマミをまわして機能を割り当てたいキー【PGM.P1】/【PGM.P2】/【PGM.P3】/【PGM.P4】を選択してDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして、割り当てたい機能（下表参照）を選択してDIALツマミを押します。

項目	機能
ARTS	ARTS機能のオン/オフ
SCN ON	スキャンの開始と停止
HOME	ホームチャンネルの呼び出しまたは解除
RPT.SFT	レベータシフト方向の設定
RPT.REV	レベータ運用時、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えます。

項目	機能
TX PWR	送信出力を切り替えます。（LOW → MID → HIGH）
SQL OFF	スケルチをオープンにします。
T-CALL	T-CALL機能が動作します。通常は選択しないでください。
DW	デュアルレシーブ（DW）機能のオン/オフ

モービル運用についてのご注意

- ◎ 自動車内で電源ケーブルを配線する場合、保護用テープを巻いたり、保護用のチューブなどを被せることをおすすめします。電源ケーブルと板金部がこすれて、被覆が破れると発火や故障の原因となることがあります。
- ◎ 自動車内に設置するとき、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような制御装置やハーネスから20cm以上はなして取り付けてください。
 - ・エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット
 - ・トランスミッション関係：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - ・その他：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎ 無線機およびオプションは、安全運転に支障がないように配線してください。
- ◎ 無線機およびオプションは、前方の視界や運転操作を妨げる場所、運転に支障をきたす場所、同乗者に危険をおよぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故やけがの原因になります。
- ◎ エアバッグシステム装備車に無線機およびオプションを取り付けるときは、エアバッグの近くに取り付けたり、配線をしないでください。万一のとき動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、ケーブル類が妨げとなり、エアバッグが正常に動作しないことがあります。
- ◎ 自動車に無線機を取り付けたあと、無線機の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎ 自動車の制御装置に少しでも異常を感じた場合には、安全な場所に自動車を停車させて直ちにエンジンを停止し、無線機の電源をオフにして、点検してください。
- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を見つづけたりしないでください。無線機を操作、または表示部を見る場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。一部の都道府県では、運転中にイヤホンなどを使用することが規制されています。
- ◎ 電気自動車やハイブリッドカーなどで無線機をご使用になる場合、インバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

設置上のご注意

本機を設置するときは、次のことにご注意ください。

- ◎ 直射日光の当たる所、高温になる所、湿気の多い所、ホコリなどが多い所、極端に振動が多い所に設置しないでください。
- ◎ 送信を繰り返すと本体が高温になりますので、放熱の妨げにならないような場所に設置してください。

アンテナと電源の設置

本機は50Ωのアンテナに整合するように設計してあります。

無線機のパフォーマンスに大きく影響しますので、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機の間での整合を確実にとり、SWRが1.5以下になるように調節してください。アンテナは非常に高い電圧になることがあります。人体などに容易に触れることがないように設置してください。

本機とアンテナを結ぶ同軸ケーブルは、50Ωの良質な同軸ケーブルをご利用ください。



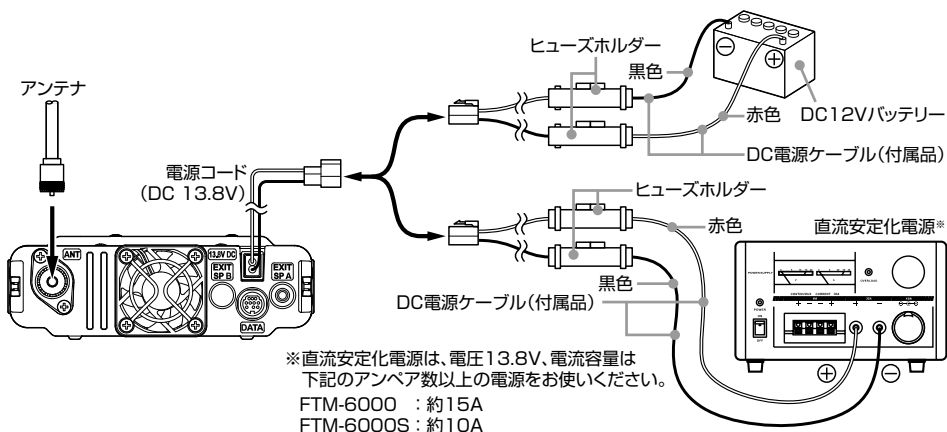
通常、人が出入りできるような場所（屋上やベランダなど）にアンテナを設置する場合は、その高さが人の歩行、その他起居する平面から2.5m以上となるように設置してください。（電波法施行規則 第25条参照）



- 車のボディーにバッテリーのマイナス（-）電極が接続してある“マイナス接地”の車でご使用ください。
- 充電制御機能のある車では、直接バッテリーに接続するのではなく、無線機の電流が車に設置されている電流センサーを通過するように接続してください。（例：マイナス側にセンサーが設置されている車の場合は、DC電源ケーブルのマイナスは車のボディアースに接続するなど。）
- 12V型バッテリーを使用している車でご使用ください。24V型バッテリーを使用している車で使用するときは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにご相談ください。

下図を参考に、アンテナと電源を接続してください。

送信時は大電流が流れますので、必ず付属のDC電源ケーブルを使用して、直接バッテリーまたは直流安定化電源に接続してください。



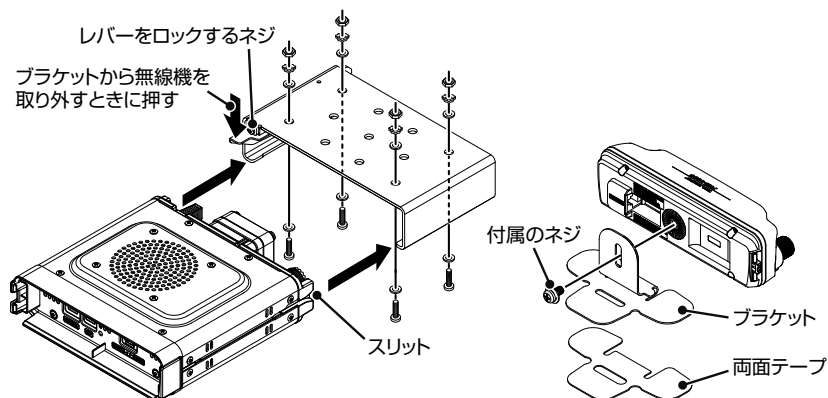
無線機本体とフロントパネルを設置する

付属のブラケットで無線機本体とフロントパネルを設置します。



- 付属のネジ以外は使用しないでください。
- フロントパネル用のブラケットは、設置する場所にあわせて手で曲げられます。

1. ブラケットのネジ穴の位置にあわせて、設置場所に付属のネジに合わせた直径の穴を4箇所あけて、付属のネジ、ナット、ワッシャーでブラケットを固定します。
ブラケットは、無線機本体の上下どちら側にも取り付けることができます。
2. 無線機の両側面にあるスリットを「カチッ」と音がしてロックされるまでブラケットに差し込みます。
3. 無線機をブラケットから外すときは、下図の矢印で示すレバーを押しながら無線機本体を引き抜いてください。
レバー部分にあるネジを締めるとレバーがロックされます。



レピータを使って交信する

本機には、周波数をレピータの周波数にあわせるだけで、すぐにレピータを使って交信ができるARS(Automatic Repeater Shift)機能が搭載されています。

1. 受信周波数をレピータのダウンリンク周波数にあわせます。
2. “- TN”が表示されて、自動でレピータシフト(-5MHz)とトーンエンコーダー(88.5Hz)が有効になり、レピータを使った交信ができます。



● 送信と受信の周波数を入れ替えるリバース機能

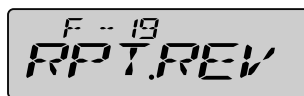
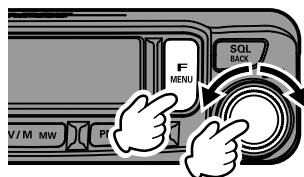
レピータシフトが設定されているときに、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えて、相手局のアップリンクを直接受信できるかどうかを確認することや、PTTスイッチを押してダウンリンク周波数で送信して相手局と交信ができます。

1. [F MENU]キーを押します。
2. DIALツマミをまわして[F-19 RPT.REV]^{*}を選択してDIALツマミを押します。


※工場出荷時は[F MENU]キーを押すと表示される“ファンクションリスト”に登録されています。

- 送信と受信の周波数が入れ替わります。
- リバース中は“-”が点滅します。

3. リバースを解除するには、上記の手順1と2を繰り返します。。



レピータに関する設定を以下の操作で変更できます。

	レピータのシフト方向	: ファンクションリスト [*] → [20 RPT.SET]
	ARS機能のオン/オフ	: メニューリスト → [21 RPT.OTR] → [RPT.ARS]
	レピータのシフト幅	: メニューリスト → [21 RPT.OTR] → [RPT.FRQ]
	トーン周波数	: メニューリスト → [25 SQL.COD]

※工場出荷時は[F MENU]キーを押すと表示される“ファンクションリスト”に登録されています。

メモリー機能

運用周波数や各種設定などの運用情報が保存できる、大容量のメモリーチャンネルを搭載しています。

- メモリーチャンネル 999ch
- ホームチャンネル 1ch
- PMSメモリーチャンネル 50組 (L01 ~ L50、U01 ~ U50)

各メモリーチャンネルには下記の情報が保存できます。

- 運用周波数
- 周波数ステップ
- 送信出力
- メモリータグ
- レピータシフト
- トーン
- DCS
- スキップメモリー

注意


メモリーした内容は別途、紙などにメモしておくようにしてください。

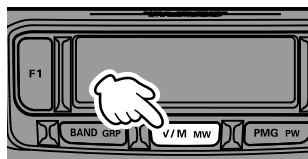
メモリーに書き込む

1. メモリーに書き込む周波数に設定します。

2. [V/M MW]キーを長押しします。

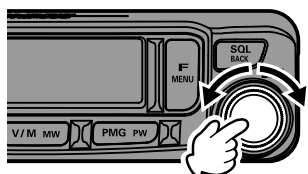
- “**M**”とメモリーチャンネル番号が点滅して表示されます。
- メモリーされていない最も小さい番号が選ばれています。他のチャンネルを選ぶ場合は、DIALツマミをまわして選択します。このときDIALツマミを押すと10チャンネルステップで早送りできます。

すでに書き込みされているメモリーチャンネルは、メモリーチャンネル番号が点灯して表示されます。



3. [V/M MW]キーを長押しして書き込みます。

- すでに書き込みされているメモリーチャンネルの場合は“OVWRT?”と確認画面が表示されますので、上書きする場合には[V/M MW]キーを長押しします。
- 書き込みをキャンセルするには[SQL BACK]キーを押します。



4. メモリーが保存されて元の画面に戻ります。

● スプリットメモリー

1つのメモリーチャンネルに、受信周波数と送信周波数を個別に保存できます。

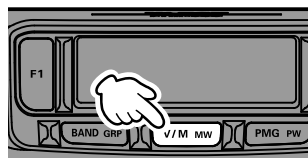


スプリットメモリーについての詳しい説明は、取扱説明書（詳細編）を参照してください（当社ウェブサイトでダウンロードすることができます）。

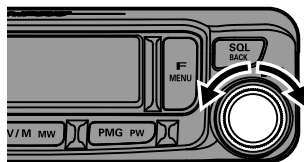
メモリーを呼び出す

1. [V/M MW]キーを押します。

最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出され、“**M**”とメモリーチャンネル番号が表示されます。



2. DIALツマミをまわして、希望のメモリーチャンネルを選択します。
3. もう一度[V/M MW]キーを押すと、VFOモードに戻ります。



● マイクロホンの数字キーでメモリーチャンネルを直接入力する

メモリーを呼び出している時に“0”～“9”の数字キーを押して、メモリーチャンネルを入力します。

(例) 123 を呼び出す場合

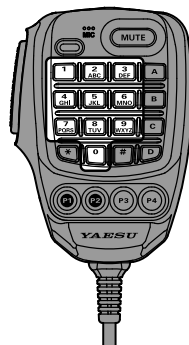
【1】→【2】→【3】

(例) 16 を呼び出す場合

【1】→【6】→【いずれかの数字キーを長押し】



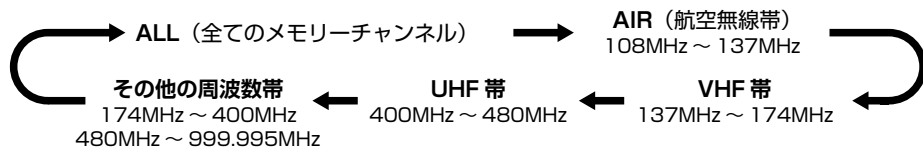
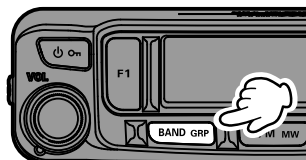
メモリーチャンネルを入力中にPTTスイッチを押すと、入力をキャンセルできます。



MAG(メモリーオートグルーピング)機能で 同じ周波数帯 (バンド) のメモリーだけを呼び出す

メモリーチャンネルを同じ周波数帯 (バンド) ごとに自動でグルーピングして呼び出すことができます。

メモリーを呼び出している時に[BAND GRP]キーを押すたびに、下記のように呼び出すバンドが切り替わり、各バンドでグルーピングされたチャンネルを呼び出すことができます。



ALL はMAG機能がオフになり、全てのメモリーチャンネルを番号順に呼び出します。

グループ名		呼び出せるメモリーチャンネル
ALL	表示無し 	バンド (周波数帯) に関係なく、全てのメモリーチャンネルを呼び出します。
AIR (航空無線帯)	A が点滅 	AIRバンド帯 (108MHz ~ 137MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
VHF帯	V が点滅 	VHF帯 (137MHz ~ 174MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
UHF帯	U が点滅 	UHF帯 (400MHz ~ 480MHz) のメモリーチャンネルだけを呼び出します。
その他の周波数帯	O が点滅 	174MHz ~ 400MHz、480MHz ~ 999.995MHz のメモリーチャンネルだけを呼び出します。

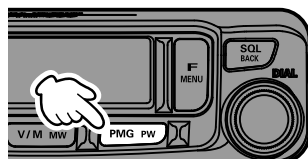
PMG(プライマリーメモリーグループ)機能で 登録した周波数(メモリーチャンネル)だけ呼び出す

よく使う周波数をPMGに登録(最大5チャンネル)しておけば、[PMG PW]キーを押すだけで登録した周波数だけ呼び出すことができます。

PMGは周波数帯(バンド)に関係なく登録することができます。

● PMG に周波数を登録する

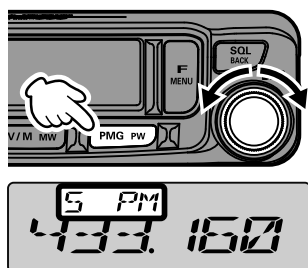
1. PMGに登録したい周波数またはメモリーチャンネルを表示します。
2. [PMG PW]キーを長押しすると、PMGに登録されます。
3. 続けて他の周波数を登録するには、上記の手順1と2を繰り返します。



PMGには、最大5チャンネルまで登録できます。

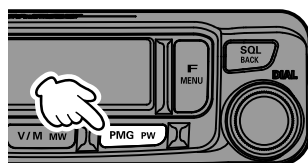
● PMG に登録した周波数を呼び出す

1. [PMG PW]キーを押します。
2. DIALツマミをまわして、使いたい周波数を選択します。
PMGに登録された周波数の呼び出し中は“1 PM”～“5 PM”が点灯します。
3. [PMG PW]キーを押すと、PMGを始める前の画面に戻ります。



● PMG に登録した周波数の登録を取り消す

1. 登録を取り消す周波数(チャンネル)を選んで、[PMG PW]キーを長押しします。
 - 登録を取り消した次の周波数(チャンネル)を表示します。
 - 5チャンネル全ての登録を取り消すと、PMGが終了します。



● PMG を終了する

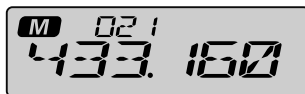
1. [PMG PW]キーを押すと、PMGを開始する前の画面に戻ります。

メモリーチャンネルに名前を付ける

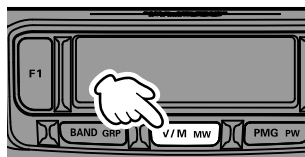
メモリーチャンネルやホームチャンネルには、コールサインや名前など、最大 6 文字のメモリータグ（名前）を付けることができます。

名前は“アルファベット”、“数字”、“記号”で入力できます。

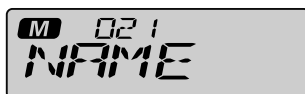
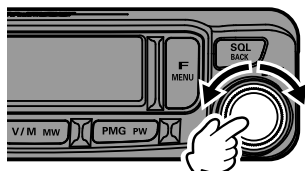
1. 名前を付けたいメモリーチャンネルまたはホームチャンネルを呼び出します。



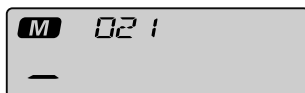
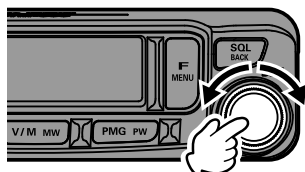
2. [V/M MW]キーを長押しします。



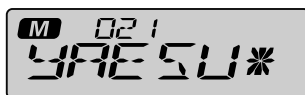
3. DIALツマミをまわして **[NAME]** を選択して DIAL ツマミを押します。



4. 文字入力画面に変わりますので、DIALツマミをまわして文字を選択して DIAL ツマミを押します。
選択した文字が確定して次の桁に移動します。

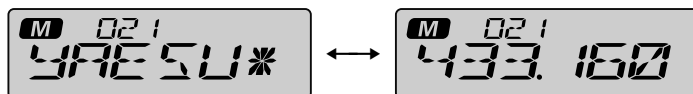


5. 同じ操作を繰り返して名前を入力します（最大 6 文字）。



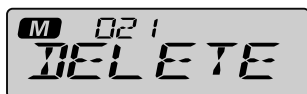
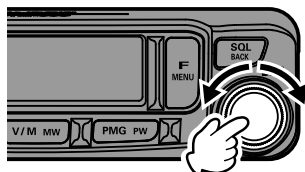
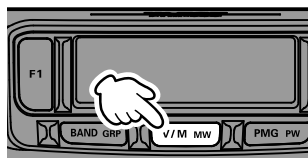
文字入力のカーソル位置は、[BAND GRP]キーを押すと左に、[PMG PW]キーを押すと右に移動します。

6. [V/M MW]キーを長押しすると、文字が確定されてメモリー表示画面に戻ります。
7. DIAL ツマミを長押しするたびに、名前表示と周波数表示が切り替わります。



メモリーを消去する

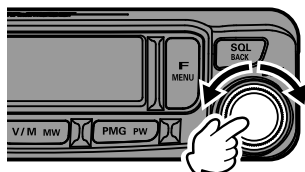
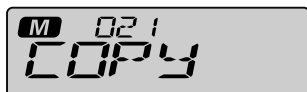
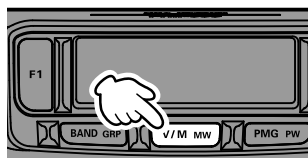
1. 消去するメモリーチャンネルを呼び出して[V/M MW]キーを長押しします。
2. DIALツマミを右にまわして **[DELETE]** を選択してDIALツマミを押します。
3. [V/M MW]キーを長押しします。
“OK?” と確認画面が表示されます。
4. [V/M MW]キーを長押しすると消去されます。



メモリーチャンネル 001 とホームチャンネルは消去できません。

メモリーをコピーする

1. コピーするメモリーチャンネルを呼び出して[V/M MW]キーを長押しします。
“COPY” が点滅します。
2. DIALツマミを押します。
3. DIALツマミをまわしてコピー先のチャンネルを選択します。
4. [V/M MW]キーを長押しするとコピーされます。



ホームチャンネルを呼び出す

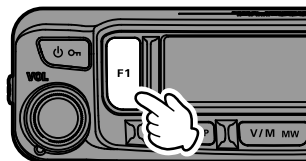
● [F1]キーで呼び出す

工場出荷時は[F1]キーに、ホームチャンネルを呼び出す“HOME”が登録されています。

1. [F1]キーを押します。

ホームチャンネルが呼び出され“HM”が点灯します。

2. もう一度[F1]キーを押すと元の周波数に戻ります。



● ファンクションリストから呼び出す

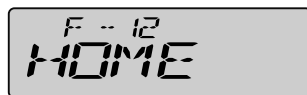
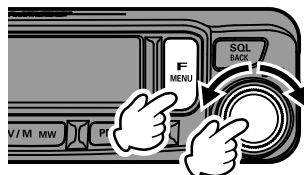
工場出荷時はファンクションリストに、ホームチャンネルを呼び出す“HOME”が登録されています。

1. [F MENU]キーを押します。

2. DIALツマミをまわして[F 12 HOME]を選択し、DIALツマミを押します。

ホームチャンネルが呼び出され“HM”が点灯します。

3. [V/M MW]キーを押すと元の周波数に戻ります。

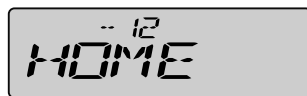
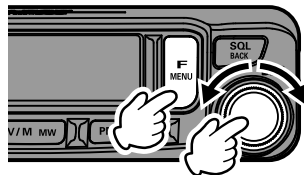


● メニューリストから呼び出す

1. [F MENU]キーを長押しします。

2. DIALツマミをまわして[12 HOME]を選択し、DIALツマミを押します。

ホームチャンネルが呼び出され“HM”が点灯します。



i “12 HOME”が“-----”と表示される場合は“ファンクションリスト”に登録されていますので、上記の“ファンクションリストから呼び出す”の操作で呼び出します。

3. [V/M MW]キーを押すと元の周波数に戻ります。

● マイクロホンのキーで呼び出す

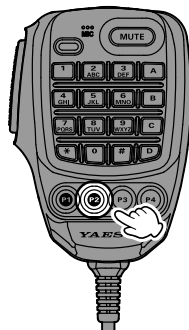
工場出荷時は[P2]キーに、ホームチャンネルを呼び出す“HOME”が登録されています。

1. マイクロホンの[P2]^{*}キーを押します。

※工場出荷時の設定です。[P1][P3][P4]キーに割り当ててすることもできます(12ページ参照)。

ホームチャンネルが呼び出され“HM”が点灯します。

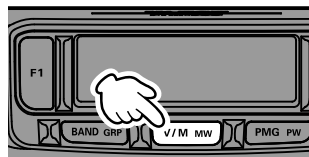
2. もう一度[P2]キーを押すと元の周波数に戻ります。



ホームチャンネルの登録内容を変更する

1. 変更する周波数などをあらかじめ設定します。

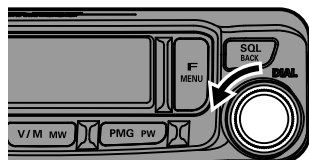
2. [V/M MW]キーを長押しします。



3. DIALツマミを左にまわして“HM”を選択します。

“HM”はメモリーチャンネル“001”の前にあります。

4. [V/M MW]キーを長押しすると上書きされ、変更されたホームチャンネルが表示されます。



● [F1]キーまたはマイクロホンのキーで変更する

[F1]キーやマイクロホンの[P1][P2][P3][P4]のいずれかのキーに“HOME”が登録されている場合(工場出荷時は[F1]キーと[P2]キーに登録されています)は、登録されているキーを長押しすると変更できます。

1. 変更する周波数などをあらかじめ設定します。

2. [F1]または[P2]キーを長押しすると上書きされ、変更されたホームチャンネルが表示されます。

スキャン機能

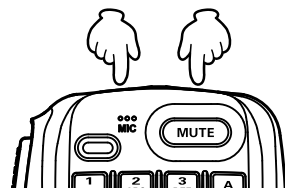
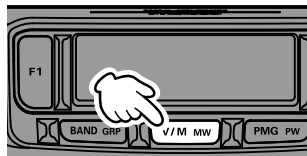
本機には、以下の4種類のスキャン機能があります。

- VFOスキャン
- メモリースキャン
- PMG(プライマリーメモリーグループ)スキャン
- プログラマブルメモリースキャン (PMS)

VFOスキャン/メモリースキャン/PMGスキャン

VFOモード、メモリーモード、PMG で信号がある周波数を探します。

1. [V/M MW]キーを押してVFOモードまたはメモリーモードにします。
2. マイクロホンの[UP] または [DOWN]スイッチを長押しするとスキャンを開始します。
 - VFOモードでのスキャン中は“VFO.SCN”の表示が点灯します。
 - メモリーモードでのスキャン中は“MEM.SCN”の表示が点灯します。
 - PMG でのスキャン中は“PMG.SCN”の表示が点灯します。
 - スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャン方向を変更することができます。
 - 信号を受信するとスキャンが一時停止して周波数が点滅し、約3秒後に再びスキャンを開始します。
3. PTTスイッチまたはマイクロホンの[UP] または [DOWN]スイッチを押すと、スキャンを中止します。この時、PTTスイッチを押してもスキャンが停止するだけで送信状態にはなりません。



VFO.SCN

VFO スキャン中の表示

M
MEM.SCN

メモリースキャン中の表示

PM
PMG.SCN

PMG スキャン中の表示



- スキャンが一時停止しているときにDIALツマミをまわすと、すぐにスキャンを再開します。
- スキャン中に本機の電源をオフにしても、電源をオンにするとスキャンを再開します。

プログラマブルメモリースキャン (PMS)

スキャンしたい周波数範囲の下限周波数と上限周波数をPMSメモリーチャンネルにメモリーして、その範囲の周波数だけをスキャンすることができます。PMSメモリーチャンネルは、上下限周波数を50組(L01/U01～L50/U50)メモリーできます。



プログラマブルメモリースキャン (PMS) についての詳しい説明は、取扱説明書(詳細編)を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードすることができます)。

スキャン停止時の動作を設定する

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして **[23 SCN.TYP]** を選択してDIALツマミを押します。

[SCN.RSM] が表示されます。

3. DIALツマミを押してからDIALツマミをまわして、スキャンが停止したときの動作を選択します。

•BUSY

信号が無くなるまで受信し、信号が無くなると約2秒後にスキャンを再開します。

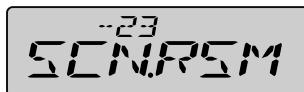
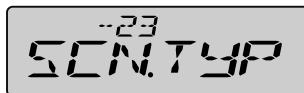
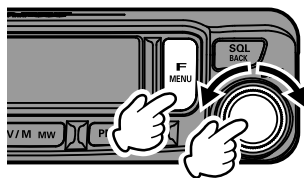
•HOLD

スキャンを中止し、その周波数を受信し続けます(スキャンは再開しません)。

- **1 SEC**(1 秒) / **3 SEC**(3 秒：工場出荷時の設定) / **5 SEC**(5 秒)

設定した時間の間だけ受信し、その後は信号の有無に関係なくスキャンを再開します。

4. DIALツマミを押すと変更した設定を保存して、通常画面に戻ります。

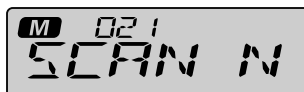
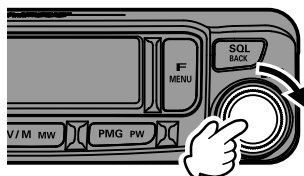
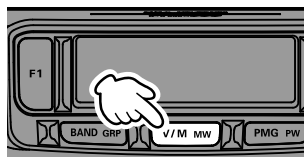


この設定は、VFOスキャン、メモリスキャン、プログラマブルメモリスキャン(PMS)で共通です。

スキャンしたくないメモリーチャンネルを設定する

メモリスキャン時にスキャンしないでスキップする“スキップメモリー”の設定ができます。

1. DIALツマミをまわしてスキャンしたくないメモリーチャンネルを選択します。
2. [V/M MW]キーを長押しします。
3. DIALツマミを右にまわして **[SCAN]** を選択して、DIALツマミを押します。
4. DIALツマミを右にまわして“SCAN N”の表示にします。
5. [V/M MW]キーを長押しして設定を終了します。



スキップメモリーを解除するには、再度上記の操作を行い、手順4で“SCAN”の表示にします。

Bluetooth[®]機能

オプションのBluetooth[®]ユニット“BU-4”とオプションのBluetooth[®]ヘッドセット“SSM-BT10”を使ってハンズフリー運用ができます。



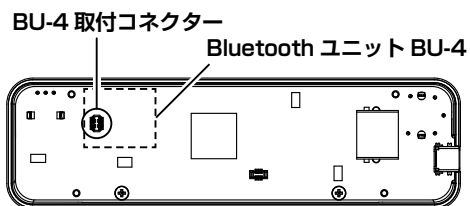
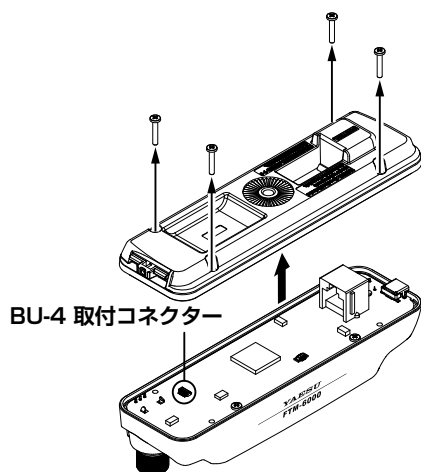
市販のBluetooth[®]ヘッドセットも使用できますが、動作を必ずしも保証するものではありません。

● Bluetooth[®]ユニット“BU-4”を取り付ける



静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場所には手を触れないでください。

1. 電源をオフにします。
2. フロントパネルからコントロールケーブルを抜きます。
3. フロントパネル背面の4本のネジを外して、背面ケースを外します。
4. BU-4 を基板上的のコネクターに差し込みます。
5. 背面ケースを 4 本のネジで元通りに取り付けます。



● はじめてヘッドセットと接続する

Bluetooth[®] ヘッドセットを使用するには、本機への登録（ペアリング）が必要です。
この操作は最初に一度だけ必要です。



SSM-BT10 以外のヘッドセットを使ってペアリングをする場合は、使用する製品の取扱説明書を併せてご覧ください。

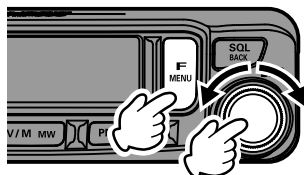
1. SSM-BT10 の“マルチファンクションボタン”を電源が入るまで押します。
SSM-BT10 のLED が赤と青に交互に点滅します。

電源が入るまで押します。

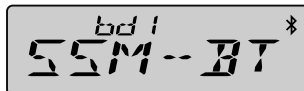
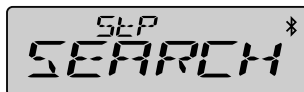
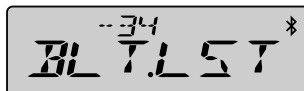
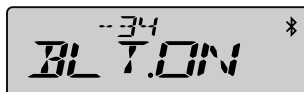
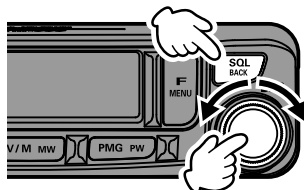
赤と青の
点滅



2. [F MENU]キーを長押しします。
3. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。
“BLT.OFF” が表示されます。
4. DIALツマミを押します。



5. DIALツマミをまわして“BLT.ON”にして[SQL BACK]キーを押します。
6. DIALツマミをまわして“BLT.LST”を選択してDIALツマミを押します。
“SEARCH” が表示されます。
7. DIALツマミを押します。
サーチが始まり、見つかったBluetooth[®] 機器が表示されます。
8. “SSM-BT10” が表示されたら[SQL BACK]キーを押してサーチを中止します。



9. DIALツマミをまわして“SSM-BT10”を選択してDIALツマミを押します。
SSM-BT10 のLED が青色の点滅になります。
以上でペアリングは完了です。

10. PTTスイッチを押すと通常画面に戻り、Bluetooth[®] ヘッドセットを使用できます。
Bluetooth[®] ヘッドセットと接続中は、画面に“✱”アイコンが点灯して、受信音や操作のピープ音がBluetooth[®] ヘッドセットから聞こえます。

● Bluetooth[®] 機能をオフにする

上記の手順 5 で“BLT.OFF”を選択します。

● 次回電源をオンにしたときのBluetooth®ヘッドセットの接続について

- Bluetooth®ヘッドセットと接続中に電源をオフにして、再度電源をオンにしたときは、同じBluetooth®ヘッドセットをサーチして自動で接続します。
- Bluetooth®ヘッドセットが見つからない場合は画面の“✳”アイコンが点滅します。この状態で同じBluetooth®ヘッドセットの電源をオンにすると自動で接続します。接続されない場合には、FTM-6000/SとBluetooth®ヘッドセットの電源を一度オフにしてからオンにしてください。
- 別のBluetooth®ヘッドセットと接続する場合には、下記の“別のBluetooth®ヘッドセットと接続する”を参照して操作してください。

● Bluetooth®ヘッドセットのボタンを押して送信する

SSM-BT10の“マルチファンクションボタン”を押すと、ピープ音が鳴りFTM-6000/Sが送信状態になり、送信を継続します。

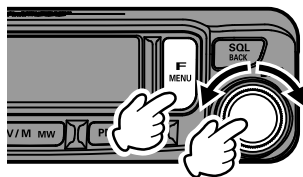
もう一度“マルチファンクションボタン”を押すとピープ音が鳴り、FTM-6000/Sが受信状態に戻ります。

マルチファンクション
ボタンを短く押す

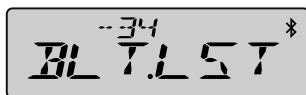


● 別のBluetooth®ヘッドセットと接続する

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。



3. DIALツマミをまわして“BLT.LST”を選択してDIALツマミを押します。
4. Bluetooth®ヘッドセットが接続中の場合(“✳”アイコンが点灯)は、DIALツマミを押します。



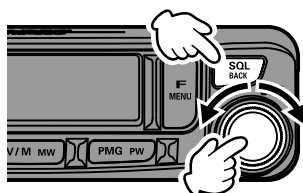
“✳”アイコンが点滅に変わります。

5. DIALツマミをまわして“SEARCH”を選択してDIALツマミを押します。

サーチが始まり、見つかったBluetooth®機器がデバイスリストに表示されます。

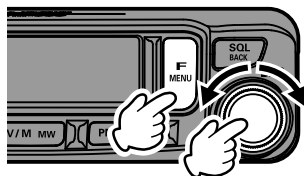


6. 接続するBluetooth®ヘッドセットが表示されたら、[SQL BACK]キーを押してサーチを中止します。
7. DIALツマミをまわして接続するBluetooth®ヘッドセットを選択してDIALツマミを押すと接続します。

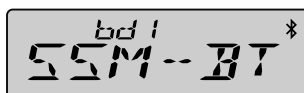
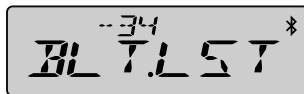


●登録（ペアリング）済みのBluetooth[®]ヘッドセットと接続する

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。

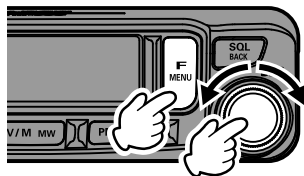


3. DIALツマミをまわして“BLT.LST”を選択してDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして接続するBluetooth[®]ヘッドセットを選択します。
5. DIALツマミを押します。

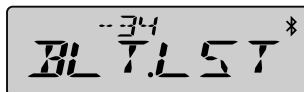


●登録（ペアリング）済みのBluetooth[®]ヘッドセットをリストから削除する

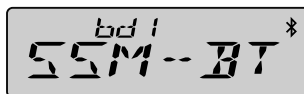
1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。



3. DIALツマミをまわして“BLT.LST”を選択してDIALツマミを押します。



4. DIALツマミをまわして削除するBluetooth[®]ヘッドセットを選択します。
5. Bluetooth[®]ヘッドセットが接続中の場合（“*”アイコンが点灯）は、DIALツマミを押します。
“*”アイコンが点滅に変わります。
6. DIALツマミを長押しします。

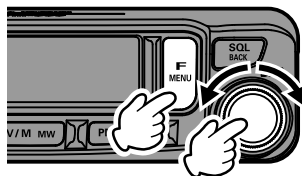


リストからBluetooth[®]ヘッドセットが削除されます。

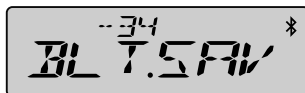
● Bluetooth[®] バッテリーセーブ機能を使う

Bluetooth[®] バッテリーセーブ機能をオンにすると、待機中のBluetooth[®] ヘッドセットのバッテリーを長持ちさせることができます。

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。



3. DIALツマミをまわして“BLT.SAV”を選択してDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“ON”を選択します。
5. DIALツマミを押すと設定が確定して通常画面に戻ります。



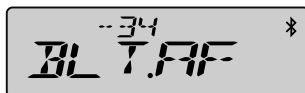
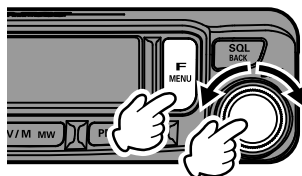
● バッテリーセーブ機能をオフにする

上記の手順 4 で“OFF”を選択します。

● Bluetooth[®] 接続中に本機のスピーカーを鳴らすかどうかを設定する

Bluetooth[®] ヘッドセットを接続した時に、ヘッドセットからだけ受信音が聞こえ、自動でスピーカーは鳴らなくなるか、またはヘッドセットと本機のスピーカーの両方から受信音が聞こえるように設定することができます。

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして【34 BLT】を選択してDIALツマミを押します。
3. DIALツマミをまわして“BLT.AF”を選択してDIALツマミを押します。



4. DIALツマミをまわしてBluetooth[®] ヘッドセットを接続しているときのスピーカーの動作を設定します。

AUTO : 受信音はBluetooth[®] ヘッドセットから聞こえ、本機のスピーカーは鳴りません。

FIX : 受信音がBluetooth[®] ヘッドセットと本機のスピーカーの両方から聞こえます。

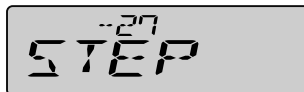
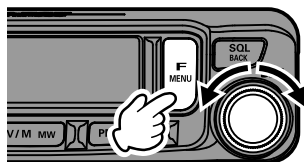
工場出荷時設定は“AUTO”です。

5. DIALツマミを押すと設定が確定して通常画面に戻ります。

周波数ステップを変更する

DIALツマミをまわしたときの周波数ステップ（周波数変化量）を変更できます。通常は工場出荷時設定の“**AUTO**”のままで使用します。

1. [F MENU]キーを長押しします。
2. DIALツマミをまわして **[27 STEP]** を選択してDIALツマミを押します。
3. DIALツマミをまわして周波数ステップを設定します。
4. DIALツマミを押すか、約3秒間何も操作しないと設定が確定し通常画面に戻ります。

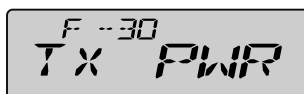
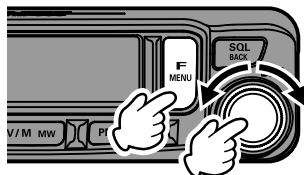


- 工場出荷時は、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップに自動で切り替わる“**AUTO**”に設定されています。
- 設定できる周波数ステップは周波数帯（バンド）によって異なります。

送信出力を変更する

工場出荷時は、付属のマイクロホンの[P4]キーを押すと送信出力が“**HIGH**”→“**LOW**”→“**MID**”と変わります（下表参照）。以下の操作でも送信出力を変えることができます。

1. [F MENU]キーを押します。
2. DIALツマミをまわして **[F-30 TX PWR]** [※] を選択してDIALツマミを押します。
[※]工場出荷時は[F MENU]キーを押すと表示される“ファンクションリスト”に登録されています。
3. DIALツマミをまわして、送信出力を選択します。
4. DIALツマミを押すか、約3秒間何も操作しないと設定が確定し通常画面に戻ります。



	HIGH ■■■■■■■■■■ (POメーター表示)	MID ■■■■■■■■■■ (POメーター表示)	LOW ■■■■■■■■■■ (POメーター表示)
FTM-6000	約 50W	約 25W	約 5W
FTM-6000S	約 20W	約 10W	約 1W

※：工場出荷時は“**HIGH**”に設定されています。

- 144MHz帯と 430MHz帯および、メモリーチャンネルごとに送信出力を個別に設定できます。



下記の機能についての詳しい説明は取扱説明書（詳細編）を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードすることができます）。

トーンスケルチ機能

トーンスケルチを使うと、設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信したときだけ音声を聞くことができます。あらかじめ相手局とトーン周波数をあわせておくことにより、静かな待ち受けができます。

また、相手局が使用しているトーン周波数がわからない場合、トーン周波数をサーチして相手と同じトーン周波数にすることができます。

デジタルコードスケルチ (DCS)機能

デジタルコードスケルチ (DCS) を使うと、設定したDCSコードが含まれた信号を受信したときだけ音声を聞くことができます。

また、相手局が使用しているDCSコードがわからない場合、DCSコードをサーチして相手と同じDCSコードにすることができます。

ページャー(EPCS)機能

ページャー(EPCS) を使うと、設定した2つの個別コードで特定の局だけを呼び出せます。さらに呼び出しを受けたときにベル音を鳴らすことができます。

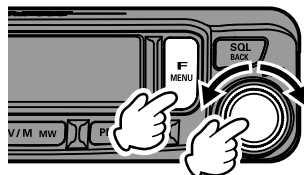
アーツ (ARTS)機能

アーツ (ARTS)機能を搭載した相手局が、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能をディスプレイの表示とビープ音で知らせる機能です。

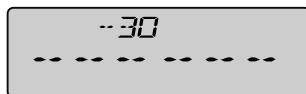
本機のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。

メニューリストの操作方法

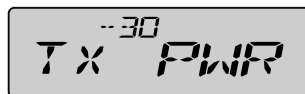
1. [F MENU]キーを長押しします。
メニューリスト画面が表示されます。
2. DIALツマミをまわして項目を選びDIALツマミを押します。



- “-----” で表示される項目は[F MENU]を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。
- 工場出荷時は“F-12 HOME”、“F-19 RPT.REV”、“F-20 RPT.SET”、“F-30 TX PWR”がファンクションリストに割り当てられています。
- “ファンクションリスト”で項目を選び[SQL BACK]キーを長押しすると、“ファンクションリスト”への割り当てが取り消されて、メニューリストで表示することができます。



ファンクションリストに
割り当てられている場合



メニューリストでの表示

3. DIALツマミをまわして設定を変更します。
4. DIALツマミを押すと、設定内容を保存して通常画面に戻ります。

メニューリスト一覧

番号/項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
01 APO	オートパワーオフ動作時間の設定	OFF / 0.5H / 1.0H / 1.5H / 2.0H ~ 12.0H (時間)
02 AR MOD	ARTS(アーツ)モードの設定	OFF / IN RNG / OUTRNG
03 AR INT	ARTS(アーツ)チェック間隔の設定	30 SEC / 1 MIN
04 BCLO	信号受信中の送信禁止設定	OFF / ON
05 BEEP	ビーブ音の音量設定	OFF / LOW / HIGH
06 BELL	ベル機能の設定	OFF / 1TIME / 3TIMES / 5TIMES / 8TIMES / CONTI(連続)
07 CLK.TYP	クロックシフトの設定	TYP A / TYP B
08 DIMMER	バックライト、キーの明るさ設定	OFF(明るい) / MID(中間) / MAX(暗い)
09 DTMF	DTMFコードの送出方法の設定	MANUAL / AUTO
10 DT TX	登録してあるDTMFコードの送出	—
11 DT MEM	DTMFコードの登録	CH1 ~ CH9
12 HOME*	ホームチャンネルの呼び出し	145.000MHz
13 MIC.GIN	マイク入力レベルの調整	MIN / LOW / NORMAL / HIGH / MAX
14 MIC.PGM	マイクロホンのプログラムキー(P1/P2/P3/P4)の機能設定	ARTS / SCN ON / HOME / RPT.SFT / RPT.REV / TX PWR / SQL OFF / T-CALL / DW PGM.P1: SQL OFF PGM.P2: HOME PGM.P3: SCN ON PGM.P4: TX PWR
15 PAGER	ページャー機能の個別コード(送信/受信)の設定	CDR(受信): 各 01 ~ 50 (05 47) CDT(送信): 各 01 ~ 50 (05 47)
16 PKT.SPD	データ通信ボーレートの設定	1200BP / 9600BP
17 RX MOD	受信モードの切り替え	AUTO / FM / AM
18 BND.SEL	選択できるバンド(周波数帯)の設定	AIR : ON / OFF VHF : ON / OFF UHF : ON / OFF OTH : ON / OFF
19 RPT.REV*	レピータ運用時に一時的に送信と受信の周波数を入れ替える	—
20 RPT.SET*	レピータシフト方向の設定	SIMP / -SFT / +SFT
21 RPT.OTR	RPT.ARS ARS(オートレピーターシフト)機能のON/OFF設定	OFF / ON
	RPT.FRQ レピータシフト幅の設定	0.00MHz ~ 99.95MHz
22 SCN.ON	スキャン機能動作開始	—
23 SCN.TYP	SCN.RSM スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定	BUSY / HOLD / 1 SEC / 3 SEC / 5 SEC
	DW RVT DW動作中の送信操作で、常にホームチャンネルで送信することができます。	OFF / ON

番号/項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
24 SQL.TYP	スケルチタイプの選択	OFF / TON.ENC / TON.SQL / REV.TON / DCS / PR FRQ / PAGER / DCS.ENC* / TON.DCS* / DCS.TSQ* / JR FRQ ※ 26 SQL.EXP が “ON” の時に表示されます。
25 SQL.COD	トーン周波数やDCSコードの選択	トーン周波数 67.0Hz ~ 254.1Hz(88.5Hz) DCSコード 023 ~ 754
26 SQL.EXP	送受信で別々のスケルチタイプの設定の許可	ON / OFF
27 STEP	チャンネルステップの設定	AUTO / 5kHz / 6.25kHz / (8.33kHz*) / 10kHz / 12.5kHz / 15kHz / 20kHz / 25kHz / 50kHz / 100kHz ※AIRバンドでのみ選択できます。
28 xx.xC	終段部付近の温度表示 10℃未満の場合は “LOWTMP” と表示されます	—
29 TOT	タイムアウトタイマーの設定	OFF / 1 MIN / 2 MIN / 3 MIN / 5 MIN / 10 MIN / 15 MIN / 20 MIN / 30 MIN (分)
30 TX PWR*	送信出力の切り替え	LOW / MID / HIGH
31 VER.DSP	DSPソフトウェアのバージョンを表示	Main : Mxx.xx Panel : Pxx.xx
32 xx.xV	電源電圧表示	—
33 WIDTH	FM帯域幅の設定	WIDE / NARROW
34 BLT	Bluetooth®機能の設定	OFF / ON
	BLT.LST 登録済またはサーチで見つかった Bluetooth®機器のリスト表示	—
	BLT.SAV Bluetooth®ヘッドセットの省電力設定	OFF / ON
	BLT.AF Bluetooth®ヘッドセット使用時の無線機のスピーカーからの音声出力設定	AUTO / FIX

※工場出荷時は [F MENU] を短押しすると表示される“ファンクションリスト”に割り当てられています。

設定を初期値に戻す（オールリセット）

注 意

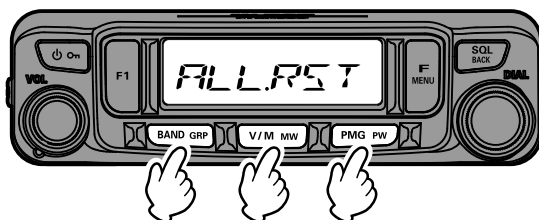
オールリセットを行うと、全ての設定やメモリー内容などが工場出荷時設定に戻ります。オールリセットを行う前に、必要な設定やメモリー内容は必ず紙などに控えてください。

本機の全ての設定やメモリー内容を工場出荷時の設定（初期値）に戻すことができます。



操作の途中でPTTスイッチを押すと、オールリセットを中止することができます。

1. 一度電源をオフにします。
2. **[BAND GRP]**、**[V/M MW]**、**[PMG PW]** の3つのキーを押しながら電源をオンにします。
“ALL.RST” が表示します。



3. DIALツマミを押します。
“RST.OK?” が表示します。



4. DIALツマミを押します。
“RST.ING” → “RST.CMP” と表示が変わり、オールリセットされます。

●一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 144 ~ 146MHz、430 ~ 440MHz : 受信周波数範囲 108 ~ 137MHz (AIR/バンド) 137 ~ 174MHz (144MHz HAM/VHF/バンド) 174 ~ 400MHz (GEN) 400 ~ 480MHz (430MHz HAM/UHF/バンド) 480 ~ 999.995MHz (GEN)
送受信周波数ステップ	: 5/6.25/8.33/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (AIR/バンドに限り 8.33kHz を選択することができます)
電波型式	: F2D、F3E
周波数安定度	: $\pm 2.5\text{ppm}$ 以内 ($-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω
電源電圧	: DC13.8V $\pm 15\%$ (マイナス接地)
消費電流	: 受信無信号時 約 0.5A 送信定格出力時 約 10A / 約 6A (144MHz帯 50W/20W) 約 10A / 約 6A (430MHz帯 50W/20W)
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法 (幅×高さ×奥行き)	: 本体 139 × 42 × 132mm (突起物を除く) フロントパネル 140 × 40.5 × 35mm (突起物を除く)
本体重量	: 約 1.1kg (本体、フロントパネル、コントロールケーブルを含む)

●送信部

送信出力	: FTM-6000 50W/25W/5W FTM-6000S 20W/10W/1W
変調方式	: F2D、F3E : リアクタンス変調
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$
不要輻射強度	: 60dB以下
マイクロホンインピーダンス	: 2k Ω
DATA端子インピーダンス	: 10k Ω

●受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: 1st : 58.05MHz、2nd : 450kHz
受信感度	: 0.8 μ V typ @10dB SN (108 ~ 137MHz、AM) 0.2 μ V @12dB SINAD (137 ~ 140MHz、FM) 0.2 μ V @12dB SINAD (140 ~ 150MHz、FM) 0.25 μ V @12dB SINAD (150 ~ 174MHz、FM) 0.3 μ V typ @12dB SINAD (174 ~ 222MHz、FM) 0.25 μ V typ @12dB SINAD (222 ~ 300MHz、FM) 0.8 μ V typ @10dB SINAD (300 ~ 336MHz、AM) 0.25 μ V @12dB SINAD (336 ~ 420MHz、FM) 0.2 μ V @12dB SINAD (420 ~ 470MHz、FM) 0.2 μ V @12dB SINAD (470 ~ 520MHz、FM) 0.4 μ V typ @12dB SINAD (800 ~ 900MHz、FM) 0.8 μ V typ @12dB SINAD (900 ~ 999.99MHz、FM)
スケルチ感度	: 0.16 μ V (144/430MHz)
低周波定格出力	: 3W(8 Ω 、THD10%、13.8V)本体内蔵スピーカー 3W(8 Ω 、THD10%、13.8V)外部スピーカー
低周波出力インピーダンス	: 8 Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4nW以下

●Bluetooth (オプションのBU-4 を取付時)

バージョン	: Version 4.2
クラス	: Class 2
送信出力	: 2 dBm

定格値は常温・常圧時の値です。

Bluetooth[®] のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

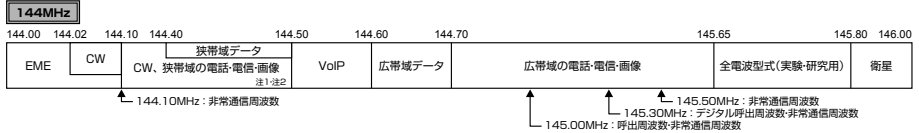
内部スプリアスについて

下記の周波数関係で、内部発振器の高周波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません (下記計算式参照: n は任意の整数)。

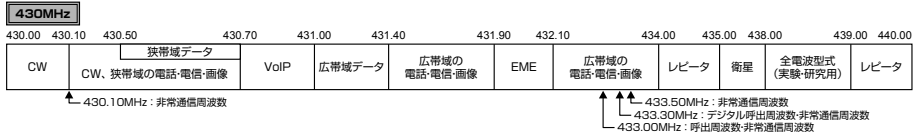
- 受信周波数 = 16MHz \times n 倍
- 受信周波数 = 12MHz \times n 倍
- 受信周波数 = 57.6MHz \times n 倍
- 受信周波数 = 44MHz \times n 倍

アマチュア業務に使用する電波の型式および周波数の使用区分

この使用区分は平成 27 年 1 月 5 日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報はJARLニュース等でご確認ください。



注1 : 144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信(EME)にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限り、注2 : 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に際して広帯域の電話・電信及び画像通信にも使用することができる。



狭帯域 : 占有周波数帯幅が 3kHz以下のもの (A3E を除く)。

広帯域 : 占有周波数帯幅が 3kHz を超えるもの。

- 平成 21 年 総務省告示第 179 号の注 22 により、呼出周波数 (145.000MHz および 433.000MHz) では、デジタルモードでの送信は禁止されています。
- デジタルモードの呼出周波数は、145.300MHz と 433.300MHz を使用できます。

免許申請書類の書きかた

無線局事項書及び工事設計書の書きかた

本機は工事設計認証を受けた適合表示無線設備です。無線機本体底面に貼ってあるラベルに工事設計認証番号（“002-” から始まる番号）が記載されています。

本機を改造せず、かつTNCなどの付属装置や付加装置などを接続しない場合は、適合表示無線設備として、管轄の総合通信局へ直接申請してください。このとき工事設計書の工事設計認証番号の欄に、本機の工事設計認証番号“002-”から始まる番号を記入してください。

- 免許申請書類は、総務省の「電波利用ホームページ」(下記URL)からダウンロードすることができます。

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/download/proc/index.htm>

- 免許申請に関しては、総務省のホームページなどで最新情報を確認してください。
- 「電波利用 電子申請・届出システム Lite」に関しては、総務省ホームページの「ご利用の手引き」(下記URL)を参照してください。

<https://www.denpa.soumu.go.jp/public2/help/doc/index.html>

※ “工事設計情報入力”画面の工事設計認証番号の“番号”欄に、本機の工事設計認証番号“002-”から始まる番号をハイフンを含めて入力してください。

無線局事項書及び工事設計書の記入例

11 無線設備の設置場所又は常置場所		住所		都道府県—市区町村コード []		
12 移動範囲		<input type="checkbox"/> 移動する（陸上、海上及び上空） <input type="checkbox"/> 移動しない				
	希望する周波数帯	電波の型式			空中線電力	
	<input type="checkbox"/> 135kHz	<input type="checkbox"/> 3 LA	<input type="checkbox"/> 4 LA		W	
	<input type="checkbox"/> 475.5kHz	<input type="checkbox"/> 3 MA	<input type="checkbox"/> 4 MA		W	
	<input type="checkbox"/> 1.9MHz	<input type="checkbox"/> A 1 A	<input type="checkbox"/> 3 MA	<input type="checkbox"/> 4 MA	W	
	<input type="checkbox"/> 3.5MHz	<input type="checkbox"/> 3 HA	<input type="checkbox"/> 4 HA	<input type="checkbox"/>	W	
	<input type="checkbox"/> 3.8MHz	<input type="checkbox"/> 3 HD	<input type="checkbox"/> 4 HD	<input type="checkbox"/>	W	
					W	
					W	
	<input type="checkbox"/> 14MHz	<input type="checkbox"/> 2 HA	<input type="checkbox"/>		W	
	<input type="checkbox"/> 18MHz	<input type="checkbox"/> 3 HA	<input type="checkbox"/>		W	
	<input type="checkbox"/> 21MHz	<input type="checkbox"/> 3 HA	<input type="checkbox"/> 4 HA		W	
	<input type="checkbox"/> 24MHz	<input type="checkbox"/> 3 HA	<input type="checkbox"/> 4 HA		W	
	<input type="checkbox"/> 28MHz	<input type="checkbox"/> 3 VA	<input type="checkbox"/> 4 VA	<input type="checkbox"/> 3 VF	<input type="checkbox"/> 4 VF	W
	<input type="checkbox"/> 30MHz	<input type="checkbox"/> 3 VA	<input type="checkbox"/> 4 VA	<input type="checkbox"/> 3 VF	<input type="checkbox"/> 4 VF	W
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	<input checked="" type="checkbox"/> 144MHz	<input type="checkbox"/> 3 VA	<input type="checkbox"/> 4 VA	<input type="checkbox"/> 3 VF	<input checked="" type="checkbox"/> 4 VF	W
	<input checked="" type="checkbox"/> 430MHz	<input type="checkbox"/> 3 VA	<input type="checkbox"/> 4 VA	<input type="checkbox"/> 3 VF	<input checked="" type="checkbox"/> 4 VF	W

144MHz、430MHzに✓印をつけてください。

4VFに✓印をつけてください。

無線従事者資格および申請する無線機に対応した空中線電力を記入します。
FTM-6000の場合は50を記入してください。
FTM-6000Sの場合は20を記入してください。

適合表示無線設備として申請する場合は、下記の“■”部分の記入を省略することができます。

本体底面にあるラベルの工事設計認証番号
（“002-”から始まる番号）を記入してください。

工事設計認証番号を記入した場合は、
枠内を記入する必要がありません。

FTM-6000の場合：RD70HUF2 x1
FTM-6000Sの場合：RD35HUF2 x1

■ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更

適合表示無線設備の番号 002-XXXXXX

第 送 信 機

発射可能な電波の型式及び周波数の範囲 F2D、F3E：144MHz帯、430MHz帯

変調方式コード F2D、F3E：FM

終段管 名称個数 電圧 13.8 V

定格出力(W)

送信空中線の型式

FTM-6000の場合：50W の有無 □有（誤差0.025%以内） □無

FTM-6000Sの場合：20W □送信機系統図

その他の工事設計 ☒電波法第3章に規定する条件に合致する。

✓印をつけてください。

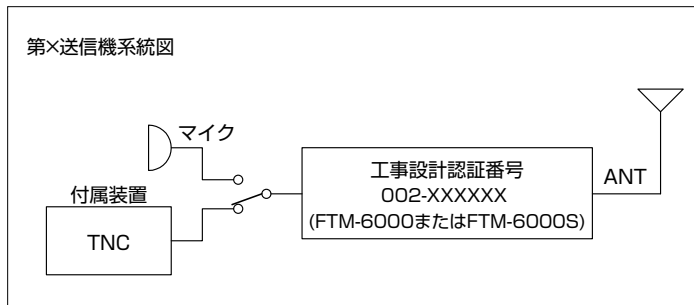
移動する局として申請する場合は省略することができます。

●データ通信をするための申請について

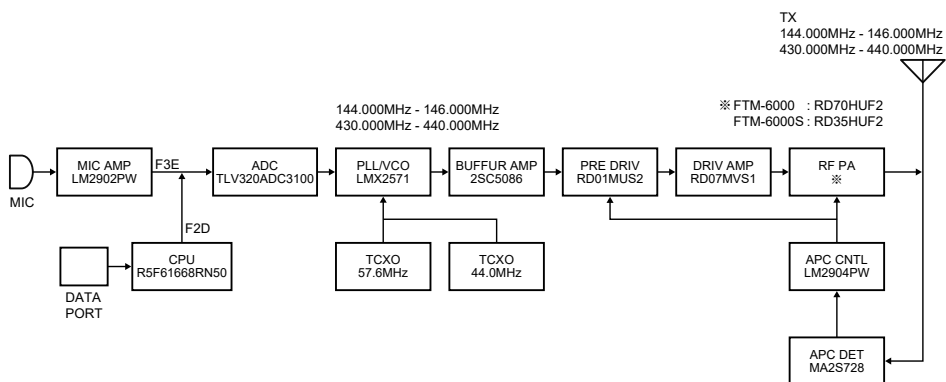
本機を改造せずに、TNCなどの付属装置を接続してデータ通信をする場合は、次のように申請してください。

- (1) 新たに使用する無線機に付属装置を接続する場合（開設、または取替、増設）は、送信機系統図と付属装置の緒元を添付して、JARDまたはTSS株式会社の保証を受けて申請してください。
- (2) 既に免許を受けている無線機に付属装置を接続する場合（変更）は、送信機系統図と付属装置の緒元を添付して、直接管轄の総合通信局に申請してください。

●マイク端子を使用する場合の簡略化した送信機系統図の例



●送信機系統図





本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～17:00

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル



Printed in China 2109L-AC-1

©2021 八重洲無線株式会社 無断転載・複写を禁ず